

2章・1節 平面上のベクトル

- ① ベクトルの意味
② ベクトルの加法・減法・実数倍

組	番号	名前

1 次の□をうめよ。☑

- (1) 右の図の線分 AB のように、向きのついた線分を□という。このとき、A を□, B を□という。



- (2) 有向線分について、その位置を問題にせず、向きと長さだけに着目したものを□といい、有向線分 AB の表すベクトルを□と書く。

また、有向線分 AB の長さをベクトル \overrightarrow{AB} の□といい、□で表す。

- (3) 2つのベクトルの□と□が一致するとき、これらのベクトルは等しいという。

- (4) ベクトル \vec{a} と大きさが同じで、向きが反対のベクトルを \vec{a} の□といい、□で表す。

- (5) 始点と終点の一致したベクトル \overrightarrow{AA} を□といい、□で表す。

- (6) 大きさが1のベクトルを□という。

$\vec{a} \neq \vec{0}$ のとき、 \vec{a} と同じ向きの単位ベクトルを \vec{e} とすると、

$\vec{e} = \square$ である。

- (7) $\vec{0}$ でない2つのベクトル \vec{a}, \vec{b} が同じ向きまたは反対向きであるとき、 \vec{a} と \vec{b} は□であるといい、□と書く。

また、次のことが成り立つ。

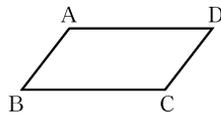
$$\vec{a} \parallel \vec{b} \Leftrightarrow \square \text{ となる実数 } k \neq 0 \text{ がある}$$

- (8) 平面上の2つのベクトル \vec{a}, \vec{b} において、 $\vec{a} \neq \vec{0}, \vec{b} \neq \vec{0}$ かつ \vec{a} と \vec{b} が平行でないとき、 \vec{a} と \vec{b} は□であるという。このとき、次のことが成り立つ。

$$k\vec{a} + l\vec{b} = k'\vec{a} + l'\vec{b} \Leftrightarrow \square$$

2 右の図の平行四辺形 ABCD の頂点を始点、終点とするベクトルを考える。☑

- (1) \overrightarrow{AB} と等しいベクトルを答えよ。

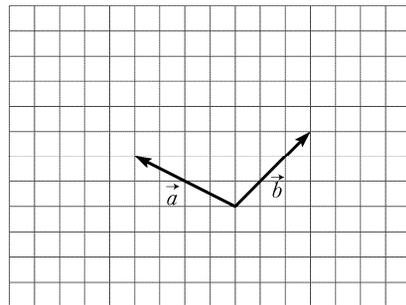


- (2) \overrightarrow{AB} と大きさが等しいベクトルを答えよ。

- (3) \overrightarrow{AD} の逆ベクトルを答えよ。

3 図のようにベクトル \vec{a}, \vec{b} が与えられたとき、次のベクトルを図示せよ。☑

- (1) $\vec{a} + \vec{b}$ (2) $\vec{a} - \vec{b}$ (3) $2\vec{a} + \vec{b}$ (4) $-\vec{a} + \frac{2}{3}\vec{b}$

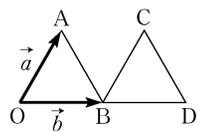


4 次の式を満たす \vec{x} を \vec{a}, \vec{b} で表せ。☑

$$4(2\vec{x} + \vec{a}) - 2(\vec{x} - 4\vec{b}) = 6\vec{a} + 4\vec{b} + 4\vec{x}$$

5 $\vec{0}$ ではなく、かつ平行でない2つのベクトル \vec{a}, \vec{b} があり、 $\vec{p} = \vec{a} + \vec{b}, \vec{q} = 2\vec{a} - \vec{b}$ とする。 $\vec{a} - \vec{b}$ と $\vec{p} + t\vec{q}$ が平行になるように、 t の値を定めよ。☑

6 右の図のように、同じ大きさの正三角形を2つつけてできる図形において、 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}, \overrightarrow{OB} = \vec{b}$ とする。次のベクトルを \vec{a}, \vec{b} を用いて表せ。☑



- (1) \overrightarrow{OC}

- (2) \overrightarrow{CD}

- (3) \overrightarrow{DA}

2章・1節 平面上のベクトル

③ ベクトルの成分

組	番号	名前

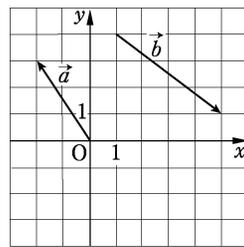
1 次の□をうめよ。[知]

- (1) 座標平面上で、 $\vec{a}=(a_1, a_2)$ と表す方法を \vec{a} の□という。このとき、 a_1 を \vec{a} の□、 a_2 を \vec{a} の□という。
- (2) また、 $\vec{a}=(a_1, a_2)$ のとき、 $|\vec{a}|=\square$ となる。
- (3) 2点 $A(a_1, a_2)$, $B(b_1, b_2)$ のとき

$$\overline{AB} = (\square, \square)$$

$$|\overline{AB}| = \square$$

2 右の図のベクトル \vec{a} , \vec{b} を成分表示し、その大きさを求めよ。[技]



3 $\vec{a}=(2, -1)$, $\vec{b}=(-1, 3)$, $\vec{c}=(6, -8)$ とするとき、次の間に答えよ。[技]

- (1) \vec{a} と同じ向きの単位ベクトルを求めよ。

(2) \vec{c} を $k\vec{a}+l\vec{b}$ の形で表せ。

(3) $\vec{a}+t\vec{b}$ と \vec{c} が平行になるような実数 t の値を求めよ。

4 平面上に3点 $A(-1, 1)$, $B(3, 0)$, $C(5, 4)$ がある。[技]

- (1) \overline{AB} を成分表示し、その大きさを求めよ。

(2) 3点 A , B , C を頂点にもつ平行四辺形の残りの頂点の座標をすべて求めよ。

5 $\vec{a}=(1, 3)$, $\vec{b}=(3, 4)$ とするとき、次の間に答えよ。[技]

- (1) 次の式を満たすベクトル \vec{x} の成分表示を求めよ。

$$5(\vec{x}+2\vec{a})=3\vec{x}+6\vec{b}$$

(2) $\vec{p}=(1-t)\vec{a}+t\vec{b}$ とする。 $|\vec{p}|$ の最小値を求めよ。また、そのときの t の値を求めよ。

2章・1節 平面上のベクトル

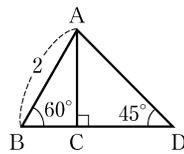
④ ベクトルの内積

組	番号	名前

1 次の□をうめよ。[国]

- 0でない2つのベクトル \vec{a} , \vec{b} に対して, 点Oを始点として, $\vec{a}=\vec{OA}$, $\vec{b}=\vec{OB}$ となるような点A, Bをとる。このとき, $\angle AOB=\theta$ を \vec{a} と \vec{b} の□という。(0° \leq θ \leq 180°)
- を \vec{a} と \vec{b} の内積といい, $\vec{a}\cdot\vec{b}$ で表す。
- \vec{a} と \vec{b} のなす角が90°のとき, \vec{a} と \vec{b} は□であるといい, 記号では□と書く。このとき, $\vec{a}\cdot\vec{b}=\square$ となる。
- 0でない2つのベクトル $\vec{a}=(a_1, a_2)$, $\vec{b}=(b_1, b_2)$ について, その内積を成分で表すと, $\vec{a}\cdot\vec{b}=\square$ である。

2 右の図のように, 2つの直角三角形を並べた図形において, 次の内積を求めよ。[国]



- $\vec{AB}\cdot\vec{AC}$
- $\vec{AB}\cdot\vec{BC}$
- $\vec{AC}\cdot\vec{BD}$
- $\vec{AD}\cdot\vec{CB}$

3 $\vec{a}=(1, 3)$, $\vec{b}=(-2, -1)$ とするとき, 次の間に答えよ。[国]

- ベクトル \vec{a} と \vec{b} の内積, および \vec{a} と \vec{b} のなす角 θ を求めよ。
- \vec{a} に垂直な単位ベクトル \vec{e} を求めよ。

4 $|\vec{a}|=3$, $|\vec{b}|=4$, \vec{a} と \vec{b} のなす角が120°のとき, 次の間に答えよ。[国]

- \vec{a} と \vec{b} の内積を求めよ。
- $|2\vec{a}+\vec{b}|$ の値を求めよ。
- $|\vec{a}+t\vec{b}|$ の最小値と, そのときの t の値を求めよ。

5 $|\vec{a}|=2$, $|2\vec{a}+\vec{b}|=8$, $\vec{a}\cdot\vec{b}=-\frac{1}{4}$ のとき, 次の間に答えよ。[国]

- $|\vec{b}|$ を求めよ。
- \vec{a} と $\vec{a}+t\vec{b}$ が垂直になるような実数 t の値を求めよ。

6 0でない2つのベクトルについて, $|\vec{a}-3\vec{b}|=|2\vec{a}+\vec{b}|$ であるとき, 次の間に答えよ。[国]

- $|\vec{a}|=|\vec{b}|$ のとき, \vec{a} と \vec{b} のなす角 θ を求めよ。
- $k|\vec{a}|=|\vec{b}|$ とする。 $\vec{a}\perp\vec{b}$ となるような定数 k の値を求めよ。

2章・1節 平面上のベクトル

- ① ベクトルの意味
② ベクトルの加法・減法・実数倍

1 次の□をうめよ。☞

- (1) 右の図の線分 AB のように、向きのついた線分を□**有向線分**□という。このとき、A を□**始点**□, B を□**終点**□という。



- (2) 有向線分について、その位置を問題にせず、向きと長さだけに着目したものを□**ベクトル**□といい、有向線分 AB の表すベクトルを□ **\overrightarrow{AB}** □と書く。

また、有向線分 AB の長さをベクトル \overrightarrow{AB} の□**大きさ**□といい、□ **$|\overrightarrow{AB}|$** □で表す。

- (3) 2つのベクトルの□**向き**□と□**大きさ**□が一致するとき、これらのベクトルは等しいという。

- (4) ベクトル \vec{a} と大きさが同じで、向きが反対のベクトルを \vec{a} の□**逆ベクトル**□といい、□ **$-\vec{a}$** □で表す。

- (5) 始点と終点の一致したベクトル \overrightarrow{AA} を□**零ベクトル**□といい、□ **$\vec{0}$** □で表す。

- (6) 大きさが1のベクトルを□**単位ベクトル**□という。
 $\vec{a} \neq \vec{0}$ のとき、 \vec{a} と同じ向きの単位ベクトルを \vec{e} とすると、
 $\vec{e} = \frac{\vec{a}}{|\vec{a}|}$ である。

- (7) $\vec{0}$ でない2つのベクトル \vec{a}, \vec{b} が同じ向きまたは反対向きであるとき、 \vec{a} と \vec{b} は□**平行**□であるといい、□ **$\vec{a} \parallel \vec{b}$** □と書く。

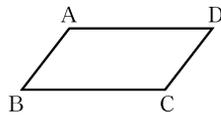
また、次のことが成り立つ。

$$\vec{a} \parallel \vec{b} \Leftrightarrow \vec{b} = k\vec{a} \text{ となる実数 } k \neq 0 \text{ がある}$$

- (8) 平面上の2つのベクトル \vec{a}, \vec{b} において、 $\vec{a} \neq \vec{0}, \vec{b} \neq \vec{0}$ かつ \vec{a} と \vec{b} が平行でないとき、 \vec{a} と \vec{b} は□**1次独立**□であるという。このとき、次のことが成り立つ。

$$k\vec{a} + l\vec{b} = k'\vec{a} + l'\vec{b} \Leftrightarrow \vec{k} = \vec{k}', \vec{l} = \vec{l}'$$

2 右の図の平行四辺形 ABCD の頂点を始点、終点とするベクトルを考える。☞



- (1) \overrightarrow{AB} と等しいベクトルを答えよ。

[解] \overrightarrow{DC}

- (2) \overrightarrow{AB} と大きさが等しいベクトルを答えよ。

[解] $\overrightarrow{BA}, \overrightarrow{DC}, \overrightarrow{CD}$

- (3) \overrightarrow{AD} の逆ベクトルを答えよ。

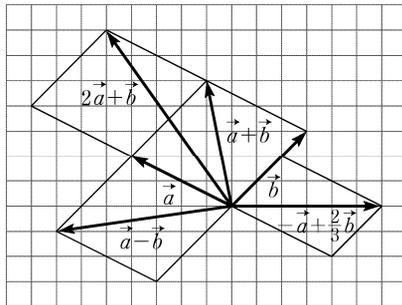
[解] $\overrightarrow{DA}, \overrightarrow{CB}$

組	番号	名前

3 図のようにベクトル \vec{a}, \vec{b} が与えられたとき、次のベクトルを図示せよ。☞

- (1) $\vec{a} + \vec{b}$ (2) $\vec{a} - \vec{b}$ (3) $2\vec{a} + \vec{b}$ (4) $-\vec{a} + \frac{2}{3}\vec{b}$

[解]



4 次の式を満たす \vec{x} を \vec{a}, \vec{b} で表せ。☞

$$4(2\vec{x} + \vec{a}) - 2(\vec{x} - 4\vec{b}) = 6\vec{a} + 4\vec{b} + 4\vec{x}$$

[解] $4(2\vec{x} + \vec{a}) - 2(\vec{x} - 4\vec{b}) = 6\vec{a} + 4\vec{b} + 4\vec{x}$

$$8\vec{x} + 4\vec{a} - 2\vec{x} + 8\vec{b} = 6\vec{a} + 4\vec{b} + 4\vec{x}$$

$$8\vec{x} - 2\vec{x} - 4\vec{x} = 6\vec{a} + 4\vec{b} - 4\vec{a} - 8\vec{b}$$

$$(8 - 2 - 4)\vec{x} = (6 - 4)\vec{a} + (4 - 8)\vec{b}$$

$$2\vec{x} = 2\vec{a} - 4\vec{b}$$

$$\vec{x} = \vec{a} - 2\vec{b}$$

5 $\vec{0}$ ではなく、かつ平行でない2つのベクトル \vec{a}, \vec{b} があり、 $\vec{p} = \vec{a} + \vec{b}, \vec{q} = 2\vec{a} - \vec{b}$ とする。 $\vec{a} - \vec{b}$ と $\vec{p} + t\vec{q}$ が平行になるように、 t の値を定めよ。☞

[解] $\vec{p} + t\vec{q} = (\vec{a} + \vec{b}) + t(2\vec{a} - \vec{b}) = (1 + 2t)\vec{a} + (1 - t)\vec{b}$

$(\vec{a} - \vec{b}) \parallel (\vec{p} + t\vec{q})$ のとき、 $\vec{p} + t\vec{q} = k(\vec{a} - \vec{b})$ (k は実数) と表される。

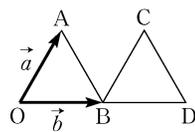
よって $(1 + 2t)\vec{a} + (1 - t)\vec{b} = k\vec{a} - k\vec{b}$

\vec{a}, \vec{b} は $\vec{0}$ ではなく、かつ平行でないから

$$1 + 2t = k, \quad 1 - t = -k$$

これを解いて $k = -3, t = -2$

6 右の図のように、同じ大きさの正三角形を2つつなげてできる図形において、 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}, \overrightarrow{OB} = \vec{b}$ とする。次のベクトルを \vec{a}, \vec{b} を用いて表せ。☞



- (1) \overrightarrow{OC}

[解] $\overrightarrow{OC} = \overrightarrow{OB} + \overrightarrow{BC} = \vec{a} + \vec{b}$

- (2) \overrightarrow{CD}

[解] $\overrightarrow{CD} = \overrightarrow{AB} = \vec{b} - \vec{a}$

- (3) \overrightarrow{DA}

[解] $\overrightarrow{DA} = \overrightarrow{OA} - \overrightarrow{OD} = \vec{a} - 2\vec{b}$

2章・1節 平面上のベクトル

③ ベクトルの成分

1 次の□をうめよ。☑

- (1) 座標平面上で、 $\vec{a}=(a_1, a_2)$ と表す方法を \vec{a} の成分表示という。このとき、 a_1 を \vec{a} のx成分、 a_2 を \vec{a} のy成分という。
- (2) また、 $\vec{a}=(a_1, a_2)$ のとき、 $|\vec{a}|=\sqrt{a_1^2+a_2^2}$ となる。
- (3) 2点A(a_1, a_2), B(b_1, b_2) のとき

$$\overrightarrow{AB} = (\boxed{b_1 - a_1}, \boxed{b_2 - a_2})$$

$$|\overrightarrow{AB}| = \sqrt{(b_1 - a_1)^2 + (b_2 - a_2)^2}$$

2 右の図のベクトル \vec{a} , \vec{b} を成分表示し、その大きさを求めよ。☑

[解] \vec{a} の成分表示は

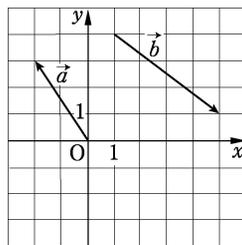
$$\vec{a} = (-2, 3)$$

\vec{a} の大きさは

$$|\vec{a}| = \sqrt{(-2)^2 + 3^2} = \sqrt{13}$$

また、 \vec{b} の始点が原点と一致するように平行移動して $\vec{b} = (4, -3)$

\vec{b} の大きさは $|\vec{b}| = \sqrt{4^2 + (-3)^2} = 5$



3 $\vec{a}=(2, -1)$, $\vec{b}=(-1, 3)$, $\vec{c}=(6, -8)$ とするとき、次の間に答えよ。☑

(1) \vec{a} と同じ向き単位ベクトルを求めよ。

[解] $|\vec{a}| = \sqrt{2^2 + (-1)^2} = \sqrt{5}$

であるから、求める単位ベクトルは

$$\frac{\vec{a}}{|\vec{a}|} = \frac{1}{\sqrt{5}}\vec{a} = \left(\frac{2}{\sqrt{5}}, -\frac{1}{\sqrt{5}}\right)$$

(2) \vec{c} を $k\vec{a} + l\vec{b}$ の形で表せ。

[解] $k\vec{a} + l\vec{b} = k(2, -1) + l(-1, 3)$
 $= (2k - l, -k + 3l)$

これが $\vec{c}=(6, -8)$ に等しいから

$$2k - l = 6, \quad -k + 3l = -8$$

これを解いて $k=2, l=-2$

ゆえに $\vec{c} = 2\vec{a} - 2\vec{b}$

(3) $\vec{a} + t\vec{b}$ と \vec{c} が平行になるような実数 t の値を求めよ。

[解] $(\vec{a} + t\vec{b}) \parallel \vec{c}$ であるから、 m を実数として

$$\vec{a} + t\vec{b} = m\vec{c}$$

と表される。

よって

$$(2, -1) + t(-1, 3) = m(6, -8)$$

$$(2-t, -1+3t) = (6m, -8m)$$

したがって $2-t=6m, -1+3t=-8m$

これを解いて $m = \frac{1}{2}, t = -1$

組	番号	名前

4 平面上に3点A(-1, 1), B(3, 0), C(5, 4)がある。☑

(1) \overrightarrow{AB} を成分表示し、その大きさを求めよ。

[解] \overrightarrow{AB} の成分表示は $\overrightarrow{AB} = (3 - (-1), 0 - 1) = (4, -1)$

\overrightarrow{AB} の大きさは $|\overrightarrow{AB}| = \sqrt{4^2 + (-1)^2} = \sqrt{17}$

(2) 3点A, B, Cを頂点にもつ平行四辺形の残りの頂点の座標をすべて求めよ。

[解] 残りの頂点をD(x, y)とする。

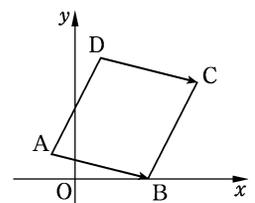
(i) 平行四辺形ABCDのとき $\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{DC}$ であるから

(1)より $(4, -1) = (5 - x, 4 - y)$

よって $4 = 5 - x, -1 = 4 - y$

したがって $x = 1, y = 5$

ゆえに D(1, 5)



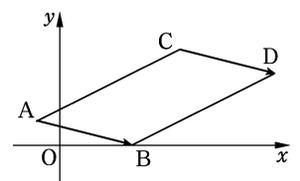
(ii) 平行四辺形ABDCのとき、 $\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{CD}$ であるから

(1)より $(4, -1) = (x - 5, y - 4)$

よって $4 = x - 5, -1 = y - 4$

したがって $x = 9, y = 3$

ゆえに D(9, 3)



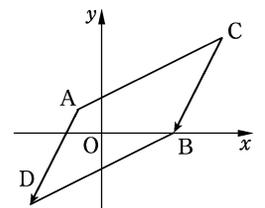
(iii) 平行四辺形ADBCのとき $\overrightarrow{AD} = \overrightarrow{CB}$ であるから

$$(x - (-1), y - 1) = (3 - 5, 0 - 4)$$

よって $x + 1 = -2, y - 1 = -4$

したがって $x = -3, y = -3$

ゆえに D(-3, -3)



(i), (ii), (iii)より、求める頂点の座標は

(1, 5), (9, 3), (-3, -3)

5 $\vec{a}=(1, 3)$, $\vec{b}=(3, 4)$ とするとき、次の間に答えよ。☑

(1) 次の式を満たすベクトル \vec{x} の成分表示を求めよ。

$$5(\vec{x} + 2\vec{a}) = 3\vec{x} + 6\vec{b}$$

[解] $5(\vec{x} + 2\vec{a}) = 3\vec{x} + 6\vec{b}$

よって $2\vec{x} = -10\vec{a} + 6\vec{b}$

したがって

$$\vec{x} = -5\vec{a} + 3\vec{b} = -5(1, 3) + 3(3, 4) = (-5, -15) + (9, 12) = (4, -3)$$

ゆえに $\vec{x} = (4, -3)$

(2) $\vec{p} = (1-t)\vec{a} + t\vec{b}$ とする。 $|\vec{p}|$ の最小値を求めよ。また、そのときの t の値を求めよ。

[解] $\vec{p} = (1-t)\vec{a} + t\vec{b} = (1-t)(1, 3) + t(3, 4) = (1+2t, 3+t)$

$$|\vec{p}|^2 = (1+2t)^2 + (3+t)^2$$

$$= 5t^2 + 10t + 10$$

$$= 5(t+1)^2 + 5$$

よって、 $|\vec{p}|^2$ は $t = -1$ のとき、最小値5をとる。

$|\vec{p}| \geq 0$ であるから、 $|\vec{p}|$ は $t = -1$ のとき、最小値 $\sqrt{5}$ をとる。

2章・1節 平面上のベクトル

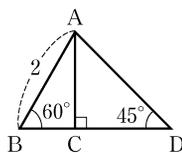
④ ベクトルの内積

組	番号	名前

1 次の□をうめよ。[国]

- (1) $\vec{0}$ でない2つのベクトル \vec{a} , \vec{b} に対して, 点Oを始点として, $\vec{a}=\vec{OA}$, $\vec{b}=\vec{OB}$ となるような点A, Bをとる。このとき, $\angle AOB=\theta$ を \vec{a} と \vec{b} の□なす角□という。(0° \leq θ \leq 180°)
- (2) □ $|\vec{a}||\vec{b}|\cos\theta$ □を \vec{a} と \vec{b} の内積といい, $\vec{a}\cdot\vec{b}$ で表す。
- (3) \vec{a} と \vec{b} のなす角が90°のとき, \vec{a} と \vec{b} は□垂直□であるといい, 記号では□ $\vec{a}\perp\vec{b}$ □と書く。このとき, $\vec{a}\cdot\vec{b}=\square 0$ □となる。
- (4) $\vec{0}$ でない2つのベクトル $\vec{a}=(a_1, a_2)$, $\vec{b}=(b_1, b_2)$ について, その内積を成分で表すと, $\vec{a}\cdot\vec{b}=\square a_1b_1+a_2b_2$ □である。

2 右の図のように, 2つの直角三角形を並べた図形において, 次の内積を求めよ。[国]



(1) $\vec{AB}\cdot\vec{AC}$

[解] $\vec{AB}\cdot\vec{AC}=2\times\sqrt{3}\times\cos 30^\circ=3$

(2) $\vec{AB}\cdot\vec{BC}$

[解] $\vec{AB}\cdot\vec{BC}=2\times 1\times\cos 120^\circ=-1$

(3) $\vec{AC}\cdot\vec{BD}$

[解] $\vec{AC}\perp\vec{BD}$ より $\vec{AC}\cdot\vec{BD}=0$

(4) $\vec{AD}\cdot\vec{CB}$

[解] $\vec{AD}\cdot\vec{CB}=\sqrt{6}\times 1\times\cos 135^\circ=-\sqrt{3}$

3 $\vec{a}=(1, 3)$, $\vec{b}=(-2, -1)$ とすると, 次の間に答えよ。[国]

(1) ベクトル \vec{a} と \vec{b} の内積, および \vec{a} と \vec{b} のなす角 θ を求めよ。

[解] ベクトル \vec{a} と \vec{b} の内積は $\vec{a}\cdot\vec{b}=1\times(-2)+3\times(-1)=-5$

\vec{a} と \vec{b} のなす角は

$$\cos\theta=\frac{\vec{a}\cdot\vec{b}}{|\vec{a}||\vec{b}|}=\frac{-5}{\sqrt{1^2+3^2}\sqrt{(-2)^2+(-1)^2}}=-\frac{1}{\sqrt{2}}$$

0° \leq θ \leq 180°であるから $\theta=135^\circ$

(2) \vec{a} に垂直な単位ベクトル \vec{e} を求めよ。

[解] $\vec{e}=(x, y)$ とすると

$\vec{a}\perp\vec{e}$ より, $\vec{a}\cdot\vec{e}=0$ であるから $x+3y=0$ ……①

$|\vec{e}|=1$ より, $|\vec{e}|^2=1$ であるから $x^2+y^2=1$ ……②

①, ②から x を消去して $y^2=\frac{1}{10}$

したがって $y=\pm\frac{1}{\sqrt{10}}=\pm\frac{\sqrt{10}}{10}$

$y=\frac{\sqrt{10}}{10}$ のとき $x=-\frac{3\sqrt{10}}{10}$

$y=-\frac{\sqrt{10}}{10}$ のとき $x=\frac{3\sqrt{10}}{10}$

よって, 求めるベクトル \vec{e} は

$$\left(\frac{3\sqrt{10}}{10}, -\frac{\sqrt{10}}{10}\right), \left(-\frac{3\sqrt{10}}{10}, \frac{\sqrt{10}}{10}\right)$$

4 $|\vec{a}|=3$, $|\vec{b}|=4$, \vec{a} と \vec{b} のなす角が120°のとき, 次の間に答えよ。[国]

(1) \vec{a} と \vec{b} の内積を求めよ。

[解] $\vec{a}\cdot\vec{b}=|\vec{a}||\vec{b}|\cos 120^\circ=3\times 4\times\left(-\frac{1}{2}\right)=-6$

(2) $|2\vec{a}+\vec{b}|$ の値を求めよ。

[解] $|2\vec{a}+\vec{b}|^2=4|\vec{a}|^2+4\vec{a}\cdot\vec{b}+|\vec{b}|^2=4\times 3^2+4\times(-6)+4^2=28$

$|2\vec{a}+\vec{b}|\geq 0$ であるから $|2\vec{a}+\vec{b}|=\sqrt{28}=2\sqrt{7}$

(3) $|\vec{a}+t\vec{b}|$ の最小値と, そのときの t の値を求めよ。

[解] $|\vec{a}+t\vec{b}|^2=|\vec{a}|^2+2t\vec{a}\cdot\vec{b}+t^2|\vec{b}|^2$

$$=3^2+2t\times(-6)+t^2\times 4^2$$

$$=16t^2-12t+9$$

$$=16\left(t-\frac{3}{8}\right)^2+\frac{27}{4}$$

したがって, $|\vec{a}+t\vec{b}|$ は $t=\frac{3}{8}$ のとき, 最小値 $\sqrt{\frac{27}{4}}=\frac{3\sqrt{3}}{2}$ をとる。

5 $|\vec{a}|=2$, $|2\vec{a}+\vec{b}|=8$, $\vec{a}\cdot\vec{b}=-\frac{1}{4}$ のとき, 次の間に答えよ。[国]

(1) $|\vec{b}|$ を求めよ。

[解] $|2\vec{a}+\vec{b}|^2=4|\vec{a}|^2+4\vec{a}\cdot\vec{b}+|\vec{b}|^2$ であるから $8^2=4\times 2^2+4\times\left(-\frac{1}{4}\right)+|\vec{b}|^2$

よって $|\vec{b}|^2=49$

$|\vec{b}|\geq 0$ であるから $|\vec{b}|=7$

(2) \vec{a} と $\vec{a}+t\vec{b}$ が垂直になるような実数 t の値を求めよ。

[解] \vec{a} と $\vec{a}+t\vec{b}$ が垂直であるから $\vec{a}\cdot(\vec{a}+t\vec{b})=0$

したがって $|\vec{a}|^2+t\vec{a}\cdot\vec{b}=0$

ここで, $|\vec{a}|=2$, $\vec{a}\cdot\vec{b}=-\frac{1}{4}$ であるから $2^2-\frac{1}{4}t=0$

よって $t=16$

6 $\vec{0}$ でない2つのベクトルについて, $|\vec{a}-3\vec{b}|=|2\vec{a}+\vec{b}|$ であるとき, 次の間に答えよ。[国]

(1) $|\vec{a}|=|\vec{b}|$ のとき, \vec{a} と \vec{b} のなす角 θ を求めよ。

[解] $|\vec{a}-3\vec{b}|=|2\vec{a}+\vec{b}|$ より

$$|\vec{a}-3\vec{b}|^2=|2\vec{a}+\vec{b}|^2$$

$$|\vec{a}|^2-6\vec{a}\cdot\vec{b}+9|\vec{b}|^2=4|\vec{a}|^2+4\vec{a}\cdot\vec{b}+|\vec{b}|^2$$

$$10\vec{a}\cdot\vec{b}=-3|\vec{a}|^2+8|\vec{b}|^2 \quad \dots\dots ①$$

ここで, $|\vec{a}|=|\vec{b}|$ であるから, $10\vec{a}\cdot\vec{b}=5|\vec{a}|^2$ すなわち $\vec{a}\cdot\vec{b}=\frac{1}{2}|\vec{a}|^2$

このとき $\cos\theta=\frac{\vec{a}\cdot\vec{b}}{|\vec{a}||\vec{b}|}=\frac{\frac{1}{2}|\vec{a}|^2}{|\vec{a}|^2}=\frac{1}{2}$

0° \leq θ \leq 180°であるから $\theta=60^\circ$

(2) $k|\vec{a}|=|\vec{b}|$ とする。 $\vec{a}\perp\vec{b}$ となるような定数 k の値を求めよ。

[解] $\vec{a}\cdot\vec{b}=0$ であるから, (1)の①より $-3|\vec{a}|^2+8|\vec{b}|^2=0$

よって $(-3+8k^2)|\vec{a}|^2=0$

$|\vec{a}|\neq 0$ であるから $-3+8k^2=0$

ここで, $|\vec{b}|=k|\vec{a}|$ で, $|\vec{a}|>0$, $|\vec{b}|>0$ であるから, $k>0$

ゆえに $k=\frac{\sqrt{6}}{4}$